

平成28年度 東京都立白鷗高等学校及び附属中学校経営計画

校長 善本 久子

I 目指す学校

『世界へ羽ばたくリーダーたちの学び舎』

『伝統からグローバルな未来へ』

本校創立以来の高い知性と豊かな教養を身に付ける教育の成果を継承し発展させるとともに、先見性をもって時代や社会の変化に対応した学校経営を推進する。特に都立初の併設型中高一貫教育校として以下のような学校をつくる。

- (1) 併設型中高一貫教育校として、都立白鷗高等学校の歴史と伝統を生かしつつ、附属中学校から**6年間の系統的な教育**により、生徒の個性・能力を伸長し**自己実現を図る学校**。
- (2) 創造性豊かで開拓精神に富んだ人格の涵養を目指し、**未来社会のリーダー**となる人材を育成する学校。
- (3) 多様性を尊重し、日本の伝統・文化や異文化への理解を深め、**国際社会に貢献する有為な人材**を育成する学校。
- (4) **地域に根ざし、開かれた学校**として、学校教育活動の公開、地域との連携、交流を積極的に行う学校。

II 中期的な目標と方策

- (1) 附属中学校が中高一貫教育の理念を生かし、かつ併設型の特性を効果的に活用するとともに、高等学校での教育活動をさらに充実させて双方が有機的につながり、生徒が充実した学校生活を送れるような安定した学校運営ができる学校組織を構築する。
- (2) 生徒の適性に応じたきめ細かい学習指導を行い、アクティブ・ラーニングを推進し、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図る。また「高大接続改革」による新テスト実施に向けた教育課程の改革、指導方法の改善等を検討する。同時に3年間及び6年間を通して生徒の在り方生き方等を考えさせるキャリア教育の充実を図る。特に中高一貫教育校として生徒の進路実現に向けた進路部主導の全校的な取り組みを実施する。
- (3) 「都立高校改革推進計画・新実施計画」の平成30年度実施に向けて、新しい「白鷗」のブランドイメージの確立を図り、関係機関との連携により有効な計画を立案するとともに、英語教育の充実等、先行実施の可能な内容は迅速に着手する。
- (4) 本校の地域特性を生かし、授業や行事などを通して、日本の伝統や文化について体験的に学ばせ、国際理解、異文化理解のためのしっかりとした基本づくりをする。
- (5) 生徒が安心して学ぶことのできる教育環境を整備し、体罰を絶対許さないとの強い姿勢で臨むとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に学校全体で取り組む。
- (6) 地域の教育資源の活用、地域行事への生徒の積極的参加、学校運営連絡協議会等相互意見交換の機会の活用、施設開放事業などを通して地域に信頼され支援される学校づくりに努める。
- (7) オリンピック・パラリンピック教育を推進し、2020年の東京大会に向け、理念を学び、国際理解やスポーツへの興味・関心を高める。

III 今年度の取り組み目標

教育活動の目標と方策

これまでの伝統を踏まえながら、学校全体が一体となった教育活動を実践し、生徒の高い志、進路目標を達成させるため、以下の観点から目指す学校の実現に努力する。

① 学校運営

中高一体化した組織的運営を目指す。そのため、学年中心主義を改め、情報の共有化と各分掌・学

年が明確な目標を掲げ、検証を実施し、次年度に継承していく体制を確立する。また、教育公務員としての意識を常にもち、個人情報などの適正な管理や体罰などの服務事故を起こさない環境を整える。

「都立高校改革推進計画・新実施計画」の教育課程等の検討を行い、新しい「白鷗」のブランドイメージをデザインする。

② 学習指導

生徒個々の学力を最大限に伸ばすことを目指す。そのため、規律ある授業、落ち着いた学習環境を整備する。学習習慣の定着を図り、その状況について定期的な検証を実施するとともに、校内研修の充実を図り、質の高い授業を維持する。アクティブ・ラーニングを推進し新しい時代に求められる学力の向上を図る。センター試験での高得点、国立及び私立の難関校への合格が実現できる学力を身に付けさせる指導を行う。また、英語教育推進校として、生徒の英語力の一層の向上を図る。また、教員相互の授業見学を通して、教科指導力を高める。

③ 進路指導

生徒が確固たる職業観、勤労観をもち、最適な進路を実現させるための6年間を通じたキャリア教育を策定し、充実した進路指導を目指す。総合的な学習の時間・教科奉仕等を通じ、生徒が在り方・生き方を考え、自己実現しようとする意欲・態度の育成を図る。中学においては職業講話、職業体験、上級学校訪問などを充実させ、早期の職業観、勤労観の育成を図る。中学・高校ともに卒業生、外部講師を積極的に活用し、講演会等により生徒の学習意欲、進路意識の喚起を図る。

また、「高大接続改革」による新テストに向けた教育課程の改善等を検討する。

④ 生活指導

安全で規律ある学校生活を生徒が主体的に保持しようとする意識、態度を身につけることを目指す。全教職員で共通した生活指導への認識をもち、いじめや暴力の根絶を目指し、組織的できめの細かい指導ができるよう指導方法を工夫する。中高一貫教育校としての特徴を生かした特別活動を通してリーダー育成の視点をもち、豊かな人間性を育む生活指導を展開する。これらの取り組みを通して、生徒に成就感を持たせ、本校への帰属意識を高める。

⑤ 募集広報

中学入学生と融合し共に切磋琢磨できる高校入学生、6年間の中高一貫教育を理解し学習意欲のある中学入学生を確保するため組織的な募集・広報活動の全面的な改善を図る。特に、高等学校の志願倍率の向上をめざし、ホームページの改善や学校説明会の増加等、効果的な広報活動を、組織を挙げて実施する。

⑥ 健康推進

生徒の基礎体力の向上を図るとともに、スクールカウンセラーとの面談等を通して心と体の健康づくりを組織的、計画的に推進する。生徒の生活実態を調査し、それを学校生活に反映させる。また、特別支援教育の推進および食育の充実に努める。

⑦ 情報活用

情報処理能力を高めるとともに、情報を適切に活用する能力の育成を目指し、学習指導へのICT機器の積極的活用を図る。

⑧ 国際理解教育

日本の伝統・文化の理解を通して世界の文化を知り、海外修学旅行や短期語学留学、次世代リーダー育成事業、さらには学校交流を通して広く海外に目を向け国際社会に貢献できる社会性を育成することを目指す。リオデジャネイロ2016オリンピック・パラリンピックの「トランスフォーマ・コネクション」プロジェクト等を通じて、オリンピック・パラリンピック精神を学び、国際感覚を身に付けさせる。

⑨ 地域連携

開かれた学校づくりを推進し地域、保護者から信頼される学校づくりを目指す。

⑩ 経営企画室

自律経営推進予算の適正な予算計画及び効果的な執行に努める。また、教員と経営企画室との連携強化を図るとともに、学校運営への経営参画の充実を図る。

IV 今年度の重点的取組と数値目標

項目		内 容	取組 達成時期
① 学校 運営	ア	中高一貫教育校の検証結果を踏まえた教育活動の継承と、都立高校改革推進計画 新実施計画による改革案を策定する。	3月
	イ	分掌及び学年、教科での年間目標と年度末の検証を実施する。	3月
	ウ	学年中心主義を改め、各分掌、教科会における中高の情報交換の促進と統一した指導体制を構築する。	3月
	エ	募集・広報活動の充実を図るとともに、円滑な入学選抜等の実施に向けた経営企画室と連携強化する。	2月
	オ	全教諭が年間3回以上の授業見学を実施し、教科指導力の向上を図る。	3月
② 学習 指導	ア	生徒による授業評価および生徒実態調査を実施し、これらの結果分析を授業に反映させ、次年度の教科目標を策定する。	9月 1月
	イ	教科別指導方法の教科内検討会の実施と進捗の分析を行い、教科指導に関するさらなる工夫・改善をおこなう。	2月
	ウ	小テスト等の実施により、基礎・基本的な学習内容の定着を図る。	3月
	エ	チューターの有効活用と自習室の充実を図る。	3月
	オ	学習習慣の定着化を図るために自宅学習時間の確保を図る。	2月
	カ	英語、漢字、数学などの各種検定に対する年間実施計画を策定する。	3月
	キ	大学等と連携した理数教育の充実を図る。	3月
	ク	英語教育推進指定校としての英語教育の一層の充実を図る。 中学校・・・卒業までに英検準2級7割取得 高1・・・GTEC平均520点レベル以上 高2・・・GTEC平均560点レベル以上	3月
ケ	外部セミナー等を活用し各教員の学習指導力の向上とともに、教員相互の授業見学を年間3回以上実施し、学習指導力の向上を図る。	3月	
③ 進路 指導	ア	5教科による勉強合宿を夏季休業日中に実施し、学力の伸長とともに、大学受験に向けた意識の啓発を図る。	8月
	イ	高校生に関しては自己の学力把握のための実力テストと模擬試験を計画的に実施する。また、中学生に対しては学力推移調査を実施し、学力の定着を図り、その後の指導に繋げる。	3月
	ウ	長期休業中の補講・補習の参加者高校延べ7,000人以上。中学延べ3,500人以上。	1月
	エ	国公立大学合格50名以上。	3月
	オ	難関国立4大学合格者10名以上。	3月
	カ	難関私大合格100名以上。	3月
	キ	GMARCH合格150名以上。	3月
ク	卒業生を含む学年検討会・センター検討会等を4回以上実施し、生徒一人一人に応じた指導内容の共有化を図り、現役合格率80%を確保。	3月	
④ 生活 指導	ア	あいさつの励行と時間厳守、制服の着こなし等の基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。	3月
	イ	体育祭、文化祭、合唱コンクールなどの行事の充実とともに、実施後の検証を通して工夫・改善を図る。	2月
	ウ	自主的・自律的な生徒会、委員会活動とその活性化を図る。	3月
	エ	部活動の活性化を図り、中学・高校とともに、都大会等以上の大会出場に3団体以上を目指す。	3月
	オ	年間皆勤者数、学年平均50名以上。	3月
	カ	いじめの実態把握アンケートを3回行い、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に資する。	3月

⑤ 募集 広報	ア	校外における説明会や学習塾等への訪問15回以上。	1月
	イ	中学校説明会参加者10,000名以上。	1月
	ウ	中学校入試倍率7.0倍以上。	3月
	エ	高校説明会参加者1,500名以上。	1月
	オ	高校入試倍率1.7倍以上。	3月
	カ	ホームページの充実を図り100回以上の更新を行う。	3月
⑥ 健康 推進	ア	生徒の状況把握を行う全体会や生徒理解研修会を実施する。	2月
	イ	スクールカウンセラーによる学年全員面接及び個別指導の充実を図る。	3月
	ウ	健康推進のための講演会を実施する。	3月
⑦ 情報 活用	ア	ICT機器を使った授業を推進する。	3月
	イ	ICT機器を活用した教職員の情報共有化を促進する。	3月
⑧ 国際理 解教育	ア	海外修学旅行及び海外短期留学の内容の充実を図る。	2月
	イ	国際社会で活躍する人材を育成するために次世代リーダー育成事業等を活用し留学の推進を図る。	3月
	ウ	姉妹校提携校との交流内容の充実、積極的な留学生の受け入れを行う。	1月
	エ	日本の伝統と文化理解教育を積極的に発信する。	3月
	オ	「トランスフォーマ・コネクション」等を活用した、オリンピック・パラリンピック教育の充実を図る。	3月
⑨ 経営 企画室	ア	適正な予算執行及び経営計画に基づいた予算計画を策定する。	3月
	イ	行政系職員と教員系職員の連携を強化し、円滑な教育活動の推進を図り、経営参画の充実を図る。	3月

主な目標項目と数値目標

項目	目標	対象	26年度実績	27年度実績	28年度目標
①	自宅学習時間	中学生	1時間41分	1時間40分	2時間
		高校生	2時間15分	2時間11分	2.5時間
②	進路決定	国公立大学・私立難関校 (早・慶・上・理) 進学者数	合格者101名 進学者58名	合格者152名 進学者82名	国公立50名 難関私大100名 GMARCH150名
		難関国公立大学合格者	4名	7名	10名
		夏期講習参加者	中学生 高校生	延べ1,975名 延べ6,637名	延べ3,252名 延べ6,997名
④	皆勤者数	中学、高校学年平均	平均64名 (1～6年)	平均66名 (1～6年)	学年平均60名
⑤	説明会等参加者	中学校	9,536名	10,750名	10,000名
		高校	1,789名	1,447名	1,500名
⑥	一般入選倍率	中学校	6.47倍	6.13倍	7.0倍
		高校	1.82倍	1.15倍	1.7倍
⑦	英語力向上	中学校			卒業までに英検準2級7割
		高校			高1 GTEC 平均520点レベル 高2 GTEC 平均560点レベル